

ミヤマシジミ

チョウ目シジミチョウ科

石川県カテゴリー 絶滅

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

Lycaeides argyrognomon praeterinsularis (Verity)

選定理由

1961年当時は手取川河川敷や堤防法面に多数生息していたが、1973年の記録を最後に最近は全く観察されず、絶滅したものと考えられる。

形態

開張30mm内外の小型種。オスの翅表は紫の強い青色、裏面は灰白色で後翅外縁に橙色の帯があり、その外側の黒斑の中には光沢のある青色がある。メスの翅表は黒褐色で後翅外縁に橙色斑があり、裏面は地色がオスより茶色味が強い。

国内分布

本州のみに分布し、分布の中心は関東、中部地方にある。生息地の多くは大きな河川の水系に沿って知られ、本県の手取川下流部がミヤマシジミの分布の西限になっていた。

県内分布

1961年（昭和36年）には、旧辰口町の手取川河川敷、堤防法面で多数観察されているが、継続した調査がなされておらず、1973年に手取川河原で2頭のオスが採集されて以来、最近の記録はない。

生態

主として食樹となるコマツナギ群落の見られる河川敷や堤防などに生息している。年に数回発生し、富山県では5月下旬から10月下旬にかけて3回発生することが知られている。成虫は好んで花に集まり、生息地であるコマツナギ群落から離れることはほとんどない。卵で越冬し、越冬卵はコマツナギの根元近くの落葉、枯枝、小石などに産みつけられる。

生息地の条件

コマツナギ群落が見られる河原や堤防が、広い範囲で残されていることが重要と思われる。

特記事項

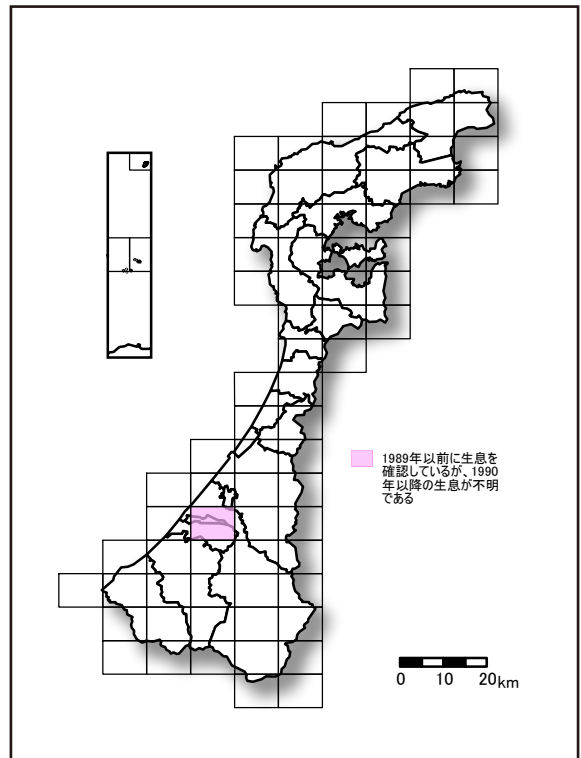
現存の石川県産標本はメス1個体のみで、現在、国立科学博物館に所蔵されている。

参考文献

富沢 章 1975. 石川県のミヤマシジミについて. とっくりばち, (30・31) : 5.
福田晴夫ほか 1984. ミヤマシジミ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ) : 316-319. 保育社. 大阪



標本提供者: 富沢章



県内の分布